

関連日本産業規格 (JIS規格) 一覧

日本産業規格 (JIS規格) より抜粋

■ フロート板ガラス及び磨き板ガラス JIS R3202-2011

6.1.2 厚さ及びその許容差 厚さは、7.1.2 によって測定したとき、表3に示す厚さ及びその許容差の範囲内になければならない。

表3 単位: mm

厚さの呼び	厚さ	許容差	厚さの呼び	厚さ	許容差
2ミリ	1.9	±0.2	8ミリ	8.0	±0.6
2.5ミリ	2.5		10ミリ	10.0	
3ミリ	3.0		12ミリ	12.0	±0.8
4ミリ	4.0		15ミリ	15.0	
5ミリ	5.0	±0.3	19ミリ	19.0	
6ミリ	6.0		22ミリ	22.0	±1.2
6.5ミリ	6.5		25ミリ	25.0	

■ 型板ガラス JIS R 3203-2009

6.3 厚さ及びその許容差 厚さは、7.2によって測定した値が、表2に示す厚さ及びその許容差の範囲内になければならない。

表2 単位: mm

種類	厚さ	許容差
2ミリ	2.2	±0.3
3ミリ	3.0	
4ミリ	4.0	±0.4
6ミリ	6.0	±0.5

■ 網入板ガラス及び線入板ガラス JIS R 3204-2014

7.2 厚さ及びその許容差 厚さは、9.3によって測定したとき、表5に示す厚さ及びその許容差の範囲内になければならない。

表5 単位: mm

厚さの呼び	厚さ	許容差
6.8ミリ	6.8	±0.6
10ミリ	10	±0.9

■ 合わせガラス JIS R 3205-2005

3 種類及び記号 b) 落球衝撃はく離特性及びショットバッグ衝撃特性による種類及び記号は、表1による。

表1

種類	記号	特性
I 類	LI	平面合わせガラス及び曲面合わせガラスで4.6の規定に適合するもの
II-1類	LI-1	平面合わせガラスのうち、4.6及び落下高さ120cmで4.7.1の規定に適合するもの
II-2類	LI-2	平面合わせガラスのうち、4.6及び落下高さ75cmで4.7.1の規定に適合するもの
III類	LIII	材料板ガラス2枚からなり、材料板ガラスの合計厚さ(?)が16ミリ以下の平面合わせガラスで4.6及び4.7.2の規定に適合するもの

注(?)材料板ガラスの合計厚さは、材料板ガラスの厚さによる種類の名称の数字の合計値(ミリ)とする。

弊社商品は中間膜15milはIII類、30milはII-1類に該当します。

5.5 厚さの許容差 平面合わせガラスでは、7.11による厚さの測定値の5.1による厚さに対する許容差は、中間膜の材料としてあらかじめ成形された膜状体を使用し加熱、加圧によって製造されるものでは、材料板ガラスの厚さの許容差の合計とし、液状の樹脂を注入し固化させて製造されるものでは、材料板ガラスの厚さの許容差の合計と表6の中間膜の厚さの許容差との合計とする。なお、あらかじめ成形された膜状体の中間膜の厚さが2mmを超えるものは、±0.2mmの許容差を材料板ガラスの厚さの許容差に加える。また、材料板ガラスの合計厚さが24ミリを超えるもの及び材料板ガラスとして強化ガラス又は倍強度ガラスを使用するものについては、受渡当事者間の協定による。

表6 単位: mm

中間膜の厚さ	許容差
1未満	±0.4
1以上2未満	±0.5
2以上3未満	±0.6
3以上	±0.7

■ 強化ガラス JIS R 3206-2023

4 種類及び記号 b) 破片の状態及びショットバッグ衝撃特性による種類及び記号は、表2による。

表2-特性による種類及びその記号

特性による種類	種類の記号	特性
I 類	TI	5.2に適合する平面強化ガラス及び曲面強化ガラス
III類	TIII	5.2及び5.4に適合する平面強化ガラス及び曲面強化ガラス

弊社商品はIII類に該当します。

6.3 厚さ及びその許容差 平面強化ガラス及び曲面強化ガラスの厚さ及びその許容差は、8.9によって測定し、表12による。

表12-厚さ及びその許容差 単位: mm

強化ガラスの種類	厚さの呼び	厚さ	厚さの許容差	強化ガラスの種類	厚さの呼び	厚さ	厚さの許容差
フロート強化ガラス 色焼付け強化ガラス	3ミリ	3.0	±0.3 a)	型板強化ガラス b)	4ミリ	4.0	±0.4
	4ミリ	4.0			3ミリ	3.0	±0.3
	5ミリ	5.0			4ミリ	4.0	
	6ミリ	6.0			5ミリ	5.0	
	6.5ミリ	6.5	±0.6	光学薄膜付き強化ガラス	6ミリ	6.0	±0.6
	8ミリ	8.0			8ミリ	8.0	
	10ミリ	10.0			10ミリ	10.0	
	12ミリ	12.0			12ミリ	12.0	
	15ミリ	15.0	±0.8				
	19ミリ	19.0	±1.2				

注a) 6.5ミリの曲面強化ガラスの場合は、除く。
注b) 型板強化ガラスの厚さは、表面の型模様の最も高い部分から反対面までをいう。

■ 熱線吸収板ガラス JIS R 3208-1998

5.2 厚さの許容差 厚さの許容差は、JIS R 3202の表3及びJIS R 3204の表5による。

■ 耐熱強化ガラス JIS R 3223-2017

4 種類及び記号 耐熱強化ガラスの種類は、使用する材料板ガラス及び防火性によって区分し、次による。

a) 材料板ガラスの種類は、使用する材料板ガラスの種類及び厚さの呼びによって区分する (表1参照)。

表1-材料板ガラスの種類による名称

材料板ガラスの種類	厚さの呼び	材料板ガラスの種類	厚さの呼び
フロート耐熱強化ガラス	3ミリ	すり板耐熱強化ガラス	5ミリ
	4ミリ		4ミリ
	5ミリ	型板耐熱強化ガラス	5ミリ
	6ミリ		6ミリ
	6.5ミリ	熱線反射耐熱強化ガラス	8ミリ
	8ミリ		10ミリ
	10ミリ		12ミリ
	12ミリ		

b) 防火性の試験による種類及び記号は、表2による。

表2-防火性の試験による種類及び記号

種類	記号	特性
I 類	FTI	9.8に規定する単板ガラスを用いた防火試験を行い、箇条8に適合するもの。
II 類	FTII	9.8に規定する複層ガラスを用いた防火試験を行い、箇条8に適合するもの。

6.2 厚さ及びその許容差 耐熱強化ガラスの厚さ及びその許容差は、9.21による測定を行い、表5による。

表5-厚さ及びその許容差 単位: mm

材料板ガラスの種類	厚さの呼び	厚さ	厚さの許容差
フロート耐熱強化ガラス	3ミリ	3.0	±0.3
	4ミリ	4.0	
	5ミリ	5.0	
	6ミリ	6.0	
	6.5ミリ	6.5	±0.6
	8ミリ	8.0	
	10ミリ	10.0	
すり板耐熱強化ガラス	12ミリ	12.0	±0.8
	5ミリ	5.0	±0.3
型板耐熱強化ガラス a)	4ミリ	4.0	±0.4
	5ミリ	5.0	
熱線反射耐熱強化ガラス	6ミリ	6.0	±0.5
	8ミリ	8.0	±0.6
	10ミリ	10.0	
	12ミリ	12.0	±0.8

注a) 型板耐熱強化ガラスの厚さは、表面の型模様の最も高い部分から反対面までをいう。

■ 複層ガラス JIS R 3209-2023

4 種類 a) 断熱性、日射取得性及び日射遮蔽性は、それぞれの特性値によって区分し、表1及び表2による。

表1-断熱性による区分

記号	熱貫流率 $U^{a)}$ (W/㎡・K)
T1	4.0以下
T2	2.7以下
T3	2.3以下
T4	1.9以下
T5	1.5以下
T6	1.1以下

注^{a)}熱貫流率 U は、鉛直使用時の値とする。

表2-日射取得性及び日射遮蔽性による区分

記号	日射熱取得率 $\eta^{a)}$
G	0.50以上
S	0.49以下

注^{a)}日射熱取得率 η は、鉛直使用時の値とする。

b) 封止の加速耐久性は、加速耐久性試験によって区分し、種類及びその記号は、表3による。

表3

種類	記号	適用する試験方法(適用箇条)	区分の内容
A類	A	アプローチ2を基とした方法 [8.5.2 (JIS R 3224-1の6.2.2.1)]	冷熱繰返し試験を56サイクル実施した後、恒温恒湿試験を7週間実施した結果、5.4.1に適合したもの。
I類	I	アプローチ1及びアプローチ2によらない方法 [8.5.3 (JIS R 3224-1の6.3.1 a)]	耐湿耐光試験を7日間実施し、引き続き、冷熱繰返し試験を12サイクル実施した結果、5.4.1に適合したもの。
II類	II	アプローチ1及びアプローチ2によらない方法 [8.5.3 (JIS R 3224-1の6.3.1 b)]	I類の試験に引き続き、耐湿耐光試験を7日間実施し、引き続き、冷熱繰返し試験を12サイクル実施した結果、5.4.1に適合したもの。
III類	III	アプローチ1及びアプローチ2によらない方法 [8.5.3 (JIS R 3224-1の6.3.1 c)]	II類の試験に引き続き、耐湿耐光試験を28日間実施し、引き続き、冷熱繰返し試験を48サイクル実施した結果、5.4.1に適合したもの。

注記 A類の加速耐久性は、III類と同等である。

弊社商品はIII類に該当します。

6.2.2 a) 厚さ 複層ガラスの厚さは、材料板ガラスの厚さと中空層の厚さとの合計で表し、受渡当事者間の協定による。

6.2.2 b) 厚さの許容差 複層ガラスの厚さの許容差は、表6による。ただし、厚さの呼びが15ミリ以上の材料板ガラスを使用するものについては、受渡当事者間の協定による。

注記 厚さの呼びとは、材料板ガラス、中空層の厚さ及び複層ガラスの厚さを表す記号であり、ミリメートル単位で表した厚さの数値のうち、整数又は小数点以下1桁までの数字をいう。

表6-厚さの許容差 単位：mm

厚さの呼び	許容差
17ミリ未満	±1.0
17ミリ以上22ミリ未満	±1.5
22ミリ以上28ミリ未満	±2.0
28ミリ以上	±2.5

■ 鏡材 JIS R 3220-2011

4 種類 鏡材の種類は、材料板ガラスの厚さによって区分し、次の5種類とする

a) 2ミリ、b) 3ミリ、c) 4ミリ、d) 5ミリ、e) 6ミリ

7.1 板ガラス 鏡材に使用する板ガラスは、JIS R 3202又はJIS R 3208に適合するものとする。

■ 光学薄膜付きガラス JIS R 3221-2022

4.3 日射熱遮蔽性による種類 熱線反射ガラスの日射熱遮蔽性による種類は、7.5.1に規定する試験方法によって求める日射熱取得率によって区分し、表2による。

注記 日射熱遮蔽性による種類分けは、低放射ガラス及び低反射ガラスのいずれにもない。

表2-日射熱取得率による区分

種類	日射熱取得率 η
1種	0.70以下
2種	0.55以下
3種	0.40以下

5.3.2 厚さ及びその許容差 光学薄膜付きガラスの厚さは、7.4によって試験を行い、ミリメートル単位で表す。厚さ及びその許容差は、JIS R 3202の6.1.2 (厚さ及びその許容差)、JIS R 3205の5.5 (厚さの許容差)、JIS R 3206の6.2 (厚さ及びその許容差)、JIS R 3208の5.2 (厚さの許容差) 又はJIS R 3222の6.2 a) (厚さ及びその許容差) による。

■ 倍強度ガラス JIS R 3222-2023

6.2 a) 厚さ及びその許容差 厚さ及びその許容差は、表4による。

表4

単位：mm

厚さによる種類	厚さ	厚さの許容差
3ミリ	3.0	±0.3
4ミリ	4.0	
5ミリ	5.0	
6ミリ	6.0	
8ミリ	8.0	±0.6
10ミリ	10.0	
12ミリ	12.0	±0.8

■ サッシ JIS A 4706-2021

5 性能 性能は、表1の項目からサッシの用途に応じて、必要な項目を選択して適用する。

表1

性能項目	等級との対応値	
開閉力	載荷荷重	50N
開閉繰返し	開閉回数	1万回又は3万回
耐風圧性	等級	最高圧力
	S-1	800Pa
	S-2	1,200Pa
	S-3	1,600Pa
	S-4	2,000Pa
	S-5	2,400Pa
	S-6	2,800Pa
気密性	等級	気密等級線
	A-1	A-1等級線
	A-2	A-2等級線
	A-3	A-3等級線
	A-4	A-4等級線
水密性	等級	圧力差
	W-1	100Pa
	W-2	150Pa
	W-3	250Pa
	W-4	350Pa
	W-5	500Pa
戸先かまち強さ	載荷荷重	50N
遮音性	等級	遮音等級線
	T-1	T-1等級線
	T-2	T-2等級線
	T-3	T-3等級線
	T-4	T-4等級線
断熱性	等級	標準化(された)熱貫流率
	H-1	4.7 (W/㎡・K) 以下
	H-2	4.1 (W/㎡・K) 以下
	H-3	3.5 (W/㎡・K) 以下
	H-4	2.9 (W/㎡・K) 以下
	H-5	2.3 (W/㎡・K) 以下
	H-6	1.9 (W/㎡・K) 以下
	H-7	1.5 (W/㎡・K) 以下
日射熱取得性	等級	日射熱取得率
	N-1	1.00
	N-2	0.50
	N-3	0.35